

令和5年度 第1回 入野小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年6月16日（金） 14時から16時まで
- 2 開催場所 入野小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 幸子、山田 渉、青木 有美、中村 勝彦
田中 大輔、古橋 明美、原田 実穂
- 4 欠席委員 岩田 邦泰
- 5 オブザーバー 徳増 宏之（入野協働センター所長）
- 6 学校支援コーディネーター 大塚 哲雄
- 7 学校 伊藤 真理（校長）、山下 淳（教頭）、
野中 律宏（教務主任）、辻村 久江（CSディレクター）
- 8 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 9 傍聴者 なし
- 10 会議録作成者 CSディレクター 辻村 久江

11 協議事項

- （1）委員任命書交付
- （2）議長の選出
- （3）学校運営の基本方針について
- （4）入野小学校のコミュニティ・スクールについて
- （5）夢育やらまいか事業に対する意見書について

12 会議記録

司会の教頭から、委員総数の過半数の出席があるため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）委員任命書交付

今年度より田中大輔PTA会長に委員を、大塚哲雄委員に学校支援コーディネーターをしていただくことが伝えられ、任命書が交付された。

（2）議長の選出

司会より、議長の選出について委員に意見を求めたところ、田中委員を推挙する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。

（3）学校運営の基本方針について

議長の指示により、校長から令和5年度学校経営構想、グランドデザインについて資料に基づき説明があった。また、入野小をとりまく状況として、以下の説明があった。

- ・地域の結束が強く、学校にもよく協力してくださる。学校としても中学校区で連携を

とっている。

- ・優しい子が多いが、今後は自分らしさやたくましさも身につけさせたいと考えている。
- ・発達支援教室（ひまわり教室）が設置されており、マンツーマンでの取り出し指導もやっている。
- ・学校は学習する場であり、よりよい授業をすることを大切に考えている。
- ・外国にルーツをもつ児童が1割ほどおり、増加傾向にある。その中で、文化の違いなどによる保護者とのコミュニケーションの取り方の難しさを感じる場面もある。

これに対し、委員からは以下の発言があった。

- ・発達支援学級や発達支援教室について知りたい。（山田委員、原田委員）
→発達支援学級では、少人数で学ぶことでより身につけやすい指導ができる。発達支援教室では、通常学級の子供が時により個に応じた取り出し指導を受けている。（校長）
- ・支援が必要な児童について、個別で対応することで習得できることがあると思う。通常学級も発達支援学級も、最終的な目標は「社会で自立できるようにする」こと。目標に到達するためのやり方の違いということだと思う。（大塚コーディネーター）
- ・誰も横並びではないので、それぞれ自分にできることはないかと考えることを小学校のうちにやれるといい。広い視野をどうやってもてるようにするかも大切。外国人保護者の車で送迎についても、外国では安全のために子供が道を歩いていないという所もある。（田中委員）
- ・犯罪に巻き込まれないようにという外国での習慣もあると思うが、学校としてはその送ってきた車で大切な子供たちを危ない目にあわせてはいけないという思いもある。それをどうやってわかってもらうかということだと思う。（大塚コーディネーター）
- ・日本の文化を押しつけてはいけないと思う。駐車スペースを確保するという視点もあるのではないか。（田中委員）

（4）入野小学校のコミュニティ・スクールについて

校長より、外国人の子供達の家学習の実態について、以下のような説明があった。例えば計算カード等、家でコツコツやって身につけるようなものもあるが、外国人の家庭では保護者が日本語がわからない、宿題に対する考え方の違いなどの理由から、家でやってくるのがなかなか難しく、支援の必要性を感じている。やり方や人材など、何かアイデアをいただけないか。

委員からは以下の発言があった。

- ・宿題でやるべきことが身につけていないということで、学校が嫌になるのが一番問題。なぜやってこれないかということを考えなければいけない。（大塚コーディネーター）
- ・学校での話し合いの内容をまとめたものを出してもらい、それをたたき台にして次回以降議論した方がよいのではないか。（田中委員）

(5) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、教頭から昨年度入野小で実施した夢育やらまいか事業の内容について説明があった。また、今年度の事業について意見や要望を求めたところ、委員より以下の発言があった。

<事業内容について>

- ・ どういう目的でやるか、子供たちにそれがどう生かされているかが大切。(大塚コーディネーター)
- ・ 学校としての考えを教えてほしい。

→学校としては、佐鳴湖学習は続けていけたらと考えている。また、子供たちが大人になった時に指針となるようなものがやれるとよい。(教頭)

- ・ グランドデザインにのっとったものがよいのではないか。(大塚コーディネーター)
- ・ 「キャリア教育の推進」の部分とむすびつくような、自分から少し前にできるようなものをやってみたらどうか。(田中委員)
- ・ 「夢をもち、学び合う子」という学校目標から、マイドリーム講座でいいのではないか。(山田委員)

<意見書について>

- ・ 意見書の文言に、「伝統」という言葉を入れられないか。(鈴木委員)
- ・ 「入野町の伝統を継承し」や、「夢をもたせて羽ばたかせていくために」という言葉はどうか。(中村委員)
- ・ 浜松には「地域遺産」というものがある。(山田委員)
- ・ グランドデザインにある「夢をもち」という言葉や、「地域の歴史を伝える」とい文言はどうか。(田中委員)

これらの意見をもとに意見書を作成するというので、全員異議なくこれを承認した。

13 連絡事項

司会より、次回会議は10/5(木)14:00から会議室で開催する旨の報告があった。